令和4年度宮崎特別支援教育研究連合知的障がい教育研究部会 第2回理事会

日時：令和4年11月28日（月）
１４：００～１６：００
会場：みなみのかぜ支援学校
進行：小園　記録：髙橋（彩）

Ⅰ 開会行事

（1） 会長あいさつ　　みなみのかぜ支援学校　仲家 孝校長

県特研連知的部会大会が夏休みに行われました。運営して頂いた都城きりしま支援学校の先生方ありがとうございました。また、11月に行われた九特連沖縄大会で、第5分科会と第6分科会で発表や司会・助言をして頂いた先生方、本当にありがとうございました。沖縄大会の事務局からメールが届き、2日間で延べ 1,093 名の参加があったそうです。みなさまのご協力のおかげです。今後も続いてまいりますので、ぜひ色々な場面で研修を深めていただけたらと思います。沖縄大会については、今後オンデマンドでの配信が予定されています。ただ、今回参加いただいたアドレスのみに配信が限定されるということです。今日は来年度に向けてのことや本年度の反省があり、先生方にご意見等をお伺いしたいこともありますので、よろしくお願いいたします。先日、全特連の理事会がありました。その中で、研修研究活動支援事業が本年度から行われています。令和4年度は沖縄の方で1校、活動費が支援されました。来年度も続くということで、全特連の方で予算を60万つくっております。1団体あたり 20 万の助成があります。ぜひ応募をしてほしいとのことでした。学校単位でもグループ単位でも応募が可能。ただし、各県の事務局を通しての応募となります。宮崎だと知的部会の方に用紙等を送っていただいて、そこから全特連に送る形になります。来年度は1月1日から3月までの間が申請期間になるようです。5月1日～令和6年2月末日が研究活動期間になります。2月末までに報告書を提出することになります。詳しくは事務局から資料等を送付いたします。各地区で検討をよろしくお願いいたします。

（2） 本日の日程、配布資料確認

Ⅱ 令和4年度第12回知的部会研究大会都城大会

（1）大会反省　　都城きりしま支援学校　壹岐 俊介先生

【壹岐T】

今回の研究大会のテーマ「特別な支援を必要とする児童生徒の進路実現にむけて」ということで、進路をテーマにして研究大会を行いました。今年度はオンライン開催で、当日のライブ配信と後日オンデマンド配信を行いました。代表理事の先生をはじめ、皆様に感謝を申し上げます。情報の周知拡散をしていただきました。当日までに滞ったところもありご迷惑をおかけしました。無事開催できたことを嬉しく思います。ありがとうございました。参加校数は67校（うち支援学校10校）でした。当日配信希望が44校、後日配信希望が18校、両方希望は5校でした。人数についてですが、当日と後日両方を希望された学校もあり、人数の正確な把握は難しかったです。約70校の参加で、全体として450名程度の先生方にご視聴をいただきました。

反省についてです。≪資料参照≫

非常にたくさんのご意見をいただきましたので、本校で集約した形で提示しております。パネルディスカッションについて色々なご意見を頂きました。自己紹介の時間が長いと感じられた先生が多かったようです。討論の部分をもっと聞きたかったというご意見をたくさんいただきました。卒業生が参加していたので、卒業生の話もたくさん聞きたかったというご意見もありました。パネリスト6名参加いただきましたが、コロナ禍の関係で事前の打ち合わせが十分にできませんでした。もう少し綿密なやり取りができるとよかったと反省しております。

また、大会全体を通して、終日オンラインでの参加が厳しいというご意見もありました。今年度から、県特研連の全体会が午前中に行われて、午後が各障がい種別部会という試みでしたので、終日の参加という部分でのご意見かと思います。知的部会での反省を頂きたかったところがあるので、アンケートの取り方についてもう少し考える必要があったと感じています。

時間いっぱい発表やディスカッションに使ってしまった。せっかくのライブ配信だったので、双方向のやり取りの機会を設定しておくべきだったと思っています。内容的に不足を感じた先生もいらっしゃったと思います。ただ今回は、様々な経験をお持ちの先生を対象とした研究大会であり、特別支援教育の概論的な内容が中心として考えられていたところもあるので、ご理解いただければと思います。

課題について、小中学校と県立学校間のやり取りがしづらかったところがあります。案内や資料に関するやり取りが「ひむかメール」で行ったが、滞ることがあったためご迷惑をおかけしました。今後その改善が図られると良いなと思います。

会計関係について、今回20万円の予算がついていました。支出の部は、編集費（業者によるZoomの設定やオンデマンド配信に向けた動画の編集等）が大きな部分になります。情報保障の面で手話通訳の希望があり、手話通訳士さんへの交通費を含め謝金という形で支出がありました。残高としては 9,871 円になりました。最終的に事務局へお金を戻す段階で、手数料がかかったので、9,871円−（手数料 330 円）＝9541円が事務局に戻っています。

以上で大会反省を終わります。いろいろとご協力をありがとうございました。

【小園T】

本来は1年間の準備期間を経て、翌年に研究大会を開催するのですが、今年度は県特研連の全体会と併催という形になりました。1年の準備期間を確保せず、昨年度末から今年度で大会の運営と実施をしていただきました。事務局としても、短い期間の中できりしま支援学校さんには色々とご迷惑をおかけしました。短い期間の中で、大変素晴らしい会をしていただきました。理事の先生方にも情報の拡散等していただき、ありがとうございました。アンケートの実施や小中学校との連絡調整における課題について、今後事務局としても一括して送信したり共有したりできる方法を考えていきたいと思います。

Ⅲ 令和4年度以降の研究大会について《資料6P 参照》

【小園T】

来年令和5年度から日南くろしお支援学校さんに、1年間大会に向けての準備をしていただき、令和6年度に第13回知的部会日南大会を実施したいと考えております。令和6年度以降は、以下の通りに企画運営校を示していますので、ご確認をお願いいたします。

Ⅳ 連絡事項≪資料参照≫

（1） 知的部会規則（細則）について

【小園T】

第1回の理事会で配布していただいた、知的部会の規則になります。3・4Pの規則について特に変更はありませんが、本年度県特研連と併催で行った結果、研究大会の表記の仕方や運営の仕方等に若干変更が生じました。また、今まで曖昧になっていた部分があるため、会長と協議して今回提案させていただきたいと思います。資料の5Pをご覧ください。細則（案）をお示ししています。決議は今回とらずに、第3回の理事会に決議を取りたいと思います。今日はご意見をいただけたらと思います。主に赤字の部分を変更等行いました。今までは知的部会のみで研究大会を行っていましたが、県特研連との併催という形になりますので、今後は分科会として位置付けたいと思います。

細則に関しては、今年度県特研連との併催になったため、赤字のように文言を整理いたしました。ここまでで何かご意見等ある先生はいらっしゃいますか。

【水野T】

分科会としての位置づけとされているので、令和6年しろやまが特連の研究大会を行う時に、知的障害教育研究部会がその日の午後の分科会という形での運営ということで、その形が定着していくということですね。

【小園T】

そうですね。今後も県特研連と併催で、午前は県特研連、午後が各障害種別という流れで進めていく予定となっております。

【水野 T】

そういうことでしたら、細則とは関係ありませんが事務局にお願いです。いい研修の機会だと思っています。参加者を増やすという観点から、夏季休業中の開催が今後も続くと思うので、校内研修として各学校で位置付けてもらうことを事務局からもお願いしていく、または校長会にその旨を考慮していただいて、校内研修は各学校の運営の範疇なのでお願いという形にはなるが、そのような流れを作ったほうがいいと思います。しろやまでは校内ではたらきかけていたが、そのような流れがないところもあるので、午前も午後もたくさんの先生方に参加していただきたかったと思う。各学校にまかせるのではなく、事務局から校長会等に働きかけていくべきなのかなあと感じます。オンライン大会であれば、入場の上限も定めなくて良いので、参加したい先生により多く参加していただく、参加していただきたい同僚の方にもより多く参加していただく流れを我々の方から作ってみようかなと思います。

【小園 T】

貴重なご意見ありがとうございます。周知拡散においては、事務局でも反省がたくさんあります。学校によっては夏季休業中の校内研に組み込んでくださったところもある。今回は準備期間が十分に設けられなかったことや、理事会の時に事務局としても強くおしていくべきだったと思います。今後、校内研に組み込んでいただけるような働きかけや、校長会等で働きかけについても、会長に協力をしていただきながら事務局としても体制を整えていきたいと思います。

【小野 T】

大会お疲れさまでした。細則の方で、九州大会や全国大会に触れて有り、併催という形で書かれてあり、数年前までは全国レベルの大会と重ねることはできないとありましたが、それは今

解消されていますが、今年の流れで言うと午前が全体、午後が知的部会となりました。その両方が九特連大会などと一緒にすることができるのか、午後だけができるのか、どこまで併催が可能なのか見通しがあれば教えてほしい。

【仲家 T】

九州大会や全国大会は規模が広がるため、どのような形で併催ができるかはその時になってみないとわかりません。宮崎県としての希望は言えるかなというところで、県特研連との関係もあります。例えば、九州大会が知的でありますとなった場合、午前中の部分を県特研連の研究大会として行いますということを数年前に言っておいて変更していただくということも可能かもしれません。そこは県特研連とつめていかない部分にはなります。時期的な問題もあり、県特連は夏休みだが、九特連や全特連は10～11月がメインとなることが多いです。そこの部分の時期との関係で、併催と言うことで名前だけ県特研連からお借りして全てを知的の方で行っていかないといけないかもしれません。まだわからないので、これからいろいろと研究してすすめていきたいです。一番早くて令和10年度になるので、そこに向けて少し研究を深めていければと思います。

【小野 T】

ありがとうございます。自分が小中特研の事務局で、知的の理事と情緒の理事を兼ねているものですから、全国大会と九州大会の兼ね合いもありお聞きしました。

【小園 T】

資料6P をご覧下さい。知的部会の申し合わせ事項案ということで表記しております。副会長や監査を担当する学校について、これまで事務局の中で定まっていないところもあったため、会長と相談しまして、このような形で申し合わせ事項として提案させていただきたいと思っています。これまで表記のなかった部分について整理をさせていただきました。この申し合わせ事項では、第3回理事会にて決議を取りたいと思います。2月の決議が下りてから、日付を加えて、来年度の理事会で改めて確認をしていきたいと思います。

ローテーション表に、副会長と監事の欄を新たに記載しております。申し合わせ事項について、ご意見等ある先生方はいらっしゃいますか。

【仲家T】

これまでほとんどなかったものになります。副会長や監事は会長が指名をするような形になっていました。できればローテーションにしておけば各地区で浸透していけばいいなと、書き添えたものです。副会長については昨年度から研究大会の実行委員長となっていたようですので、そこを入れさせていただきました。小中特研の校長先生については、色々な役職をもっておられ、地区によっては色々な輪番を決めておられると思います。その中に入れて頂いて、代表者と言う形でお願いできればと思います。例えば、南那珂地区は2つの小中特研があり、そこでも輪番があるかと思います。話し合っていただいて、決めていただければと思います。各地区の方に持ち帰っていただいて、次回の理事会でまたご意見を頂けたらと思います。

（2） 九特連分科会について

【小園 T】

次の7P をご覧ください。こちらは九特連の評議委員会の資料からもってきたものになります。九特連の大会についてですが、分科会のテーマの再編成について提案がありました。

≪資料参照≫

早めにお伝えした理由としては、令和6年度から実施するということもあり、九特連の方で提案決定したので、知的部会の方でもかかわってくる研究大会ということでお知らせしました。

8P をご覧ください。こちらも九特連からの資料になります。今後の担当振り分けについてになります。令和5年度の福岡大会では、第4分科会「作業学習・進路学習」の小中学校が宮崎担当で、特別支援学校は第5分科会「自立活動」が担当になります。第4分科会「作業学習・進路学習」については早い段階で連絡がありまして、串間市立串間中学校が担当となっています。令和6年度以降は確認をお願いします。

分科会テーマの再編の経緯について会長から補足説明をします。

【仲家 T】

再編案については理事会の際に示されました。沖縄事務局の方で考えられた再編案になります。第2回の理事会でアンケートがとられ、各県で集約されたようです。その中で、再編案にかんして各県賛成7反対1ということで、原案のとおりになりました。本県では支援学校の校長にアンケートをとりましたが、基本的に賛成という意見だった。細かい部分に関しては、様々な意見が聞かれています。これについては一応この形ですすめて、何かあった時に変更していく形を考えているようです。令和6年度からまずは行うことになりました。来年度につきましては、福岡から連絡があり、第6分科会が「交流及び共同学習」、第7分科会が「人材育成」になるということです。佐賀大会については、提案等はまだありません。来年度に提案が示されるかと思います。

【瀬川T】

小中特研の先生方に今後提案するかと思うのですが、教科等を合わせた指導をせずに教科指導しかやっていない場合は、どのような形になるのかなと思っています。

【小園T】

実際にそのような問い合わせがあったのでしょうか。

【瀬川T】

あるかもしれないと考えられます。こちらで地域を入れ替える等で対応をしていきたいとは思っています。

【仲家T】

特別支援学級の中で、合わせた指導について、それをされていない学校が当たるのかどうか。その辺りは宮崎だけの話なので、小中特研等で調整を行っていくことになるかと思う。それでも難しい場合は、事務局でできる所を探していきたいと思います。第6・第7分科会に何がくるのかが全く分からないのが怖い。いつの段階でわかるかが不明。宮崎県が第6・第7が回ってくるのは数年後であるが、いつテーマが決まるかはわからない。九特連の中でも課題になると思う。2年前の年度末の理事会の段階でわかるといいのだが、現在の状況では急な対応が必要になっている。理事会等で、その辺りは訴えていけるといいと思っています。

【小園T】

過去にどういうことをしたらいいのかわかないと問い合わせがあったことがあります。必要に応じて、データについて情報提供をしていきたいと思いますので、ご連絡ください。

【小野T】

2点確認したい。まず、第6・第7分科会が、熊本大会で宮崎があたる。全国大会を兼ねてい

ると思います。20弱くらいの分科会になって、これが少しずれるのではないかと思います。もう1点が、以前九情研と九特連の同時開催があった。またそのような動きがあれば教えていただきたいです。

【小園T】

1点目については、細かくなる可能性があるということは確認しています。九情研と兼ね合うところに関しては現時点で情報がないため、わかり次第理事会やメールでお伝えしていきたいと思います。

V 閉会行事

（1） 会長あいさつ　みなみのかぜ支援学校　仲家 孝校長

今日は色々なご審議をありがとうございました。わからないことが多い状況かなと思います。研究会というのが、宮崎・九州・全国という流れで動いていくことがお分かりかと思います。全国になると分科会が16くらいと数が多いです。全国大会になると、各県の割り当てや全国大会の輪番みたいなものもあり、そこに九州がどこをやるのかなど、熊本の場合は九州が全て受け持たなければならない部分が出てくるかと思います。全国大会を経験された先生がいらっしゃったら、また教えてください。何か情報がわかり次第、お伝えしていけたらと思います。

小中特研と支援学校との連携、連絡体制が難しい現状があります。それぞれ違うシステムを使っており、ひむかメールも学校代表アドレスになると誰が見ているのかがわからない状況もあります。事務局とは、Gmail を使用してもいいのではないかと話をしているところです。各地区の状況がわからないため、また色々と現状を教えていただけると有難いです。改善できるものは改善していきたいと思っています。

全国知的障害 PTA 連合会の代表者会で、主権者教育の話がありました。主権者教育と聞くと、高等学校や高等部と思い浮かびますが、そうではなく、小さいころからしっかりと取り組んでいかなければいけないと言われました。主権者教育とは、自らが社会的意思決定を行うことを学ぶということだそうです。それをもとに、小さいころからの情報や体験をもとに社会決定の意思決定を自分から行うことを養っていくのが主権者教育というところだそうです。大事なことが3つあり、まず1つ目は一票がその子どものものであるということです。障害の有無にかかわらず、その1票はその人のものであるということを教えていかなければならない。2つ目は、自分が選んだものは絶対に間違いではないということです。どのような選び方をしても、それは正しいということを教えていってください。3つ目は、どんなに障がいの思い人でも意志のない人はいないということです。なかなか難しい教育ではありますが、このような面も含めて各学校で広げていってほしいと思います。

本日は短い時間ではありましたが、ありがとうございました。

【小園T】

本日の提案事項については、次の理事会でご意見を伺って決議を取りたいと思いますので、各自持ち帰っていただいてご検討をよろしくお願いいたします。